

審査結果報告書【SCSA】人工種苗生産者・養殖場

認証事業者名	株式会社ツナドリーム五島
認証番号	種苗生産者認証番号 BV-TD-OR-0002 / 養殖生産者認証番号 BV-KU-FA-0003 / BV-TD-FA-0003
コントラクトNo	18441554
審査規格と基準	SCSA認証 原則と基準 Ver.2.2
書類審査（文書レビュー）日	2023年4月6日（木）～2023年6月5日（月）
実地審査日	TDG 2023年6月5-8日 TDO 2023年4月7-9日
審査受審者氏名	代表取締役 石山直良様、TDO所長 中村光辰様、TDG 志田 宗久様、TDO 松尾 篤志様
審査員（主任）氏名	櫻井 輝喜
メンバー	佐久間 智恵子

審査総論

本審査において不適合事項が検出されました。以下不適合事項が解決された後、認証の推薦をいたします。

コメント

<p>（会社概要）</p> <p>株式会社ツナドリーム五島は、長崎県五島市に所在する株式会社です。豊田通商株式会社の100%子会社として、2010年に設立されました。株式会社ツナドリーム沖繩は、2014年5月に設立され、株式会社ツナドリーム五島の100%子会社です。持続可能な人工養殖の推進のための活動をしています。</p> <p>・株式会社ツナドリーム五島（TDG）の役割：</p> <p>①マダイ 受精卵を購入（アーマリン近大）養殖（陸上→海上）→中間魚（マダイ稚魚）を養殖業者へ販売</p> <p>②クロマグロ 受精卵を購入（水産研究教育機構 あるいは アーマリン近大）</p> <p>①陸上施設で孵化、養殖（稚魚）</p> <p>②陸上→TDOへ販売（移動）</p> <p>③TDOより中間魚を購入（移動）</p> <p>④養殖した成魚を販売</p> <p>・株式会社ツナドリーム沖繩（TDO）の役割：</p> <p>○クロマグロ 養殖業者へクロマグロ中間魚を販売、</p> <p>TDOは、TDG及びアーマリン近大から、マグロの稚魚を購入し、温暖な気候を生かし、ヨコワの養殖、出荷をしています。</p> <p>両社は、グループ会社として、完全養殖クロマグロの種苗生産、中間育成に特化してスタートし、人工種苗の量産化、品質向上を目指し事業推進をしています。</p> <p>人工種苗からの養殖マグロの特徴をいかにし、トレーサビリティシステムを確立しています。</p> <p>世界情勢の影響で養殖マグロの需要が高まっていると伺いました。「COVID-19」の影響で生鬻尾数を減少させたため、現在、供給が追いつかない状況だそうです。</p> <p>今後は、農林水産省のみどりの食料システム戦略「2050年 人工種苗100%」に向けて、ヨコワの品質向上を目指しています。</p>
<p>（総括）（※各項目の詳細は、チェックリストを参照ください）</p> <p>SCSAの運用は、手順書に沿って実施され、良く管理されていました。</p> <p>人工種苗、養殖、出荷の管理データは、データベースにて詳細に記録されています。</p> <p>グループでISO14001を取得されていることもあり、周囲の環境への影響の配慮は、適性な給餌、逃亡防止なども良く管理されています。</p> <p>対象魚への魚類福祉面での取り扱い、最小限の医薬品の使用、出荷時の取り扱いなどこまめに実施されています。</p> <p>今回イレギュラーな事例として、マダイの稚魚をアーマリン近大から購入し、稚魚育成をしていました。この時の種苗経歴証明書を入手していなかったため不合格となりました。</p> <p>（→2023年6月12日に修正処置、是正処置が完了しています。不合格を解除しました。）</p>
<p>1. 種苗</p> <p>・TDGは、マダイ受精卵をアーマリン近大から購入し、種苗生産を行っています。クロマグロは、受精卵を購入（アーマリン近大、水産研究教育機構）種苗生産、養殖を行っています。種苗生産施設は、陸上にあります。</p> <p>ワムシ培養槽、テルミア培養槽があり自社培養しています。TDOでは、人工種苗生産は行っていません。</p> <p>給餌、投薬を含む飼育情報は、システム内にある記録帳票（陸上施設 飼育データ、海上施設 稚魚育成データ）に、魚種、水槽、漁場、生簀ごとに時系列で記録しています。</p> <p>水槽、生簀の分割、統合、死亡魚数、水温・DO等の観察情報も記録され、生産履歴情報が確認できました。適切に管理されていました。</p>
<p>2. 対象人工種苗飼育管理</p> <p>・TDGは、自社でふ化した人工種苗マダイを飼育し、養殖業者へ種苗を販売しています。クロマグロは、アーマリン近大、水産研究教育機構より受精卵を購入、孵化した人工種苗を飼育し、TDOに移送しています。</p> <p>TDOにて育成した中間魚（ヨコワ）をTDGに移送し成魚まで養殖し販売しています。</p> <p>TGOは、TDG、アーマリン近大よりクロマグロの人工種苗を購入し、養殖を行っています。中間魚（ヨコワ）の販売のみで、成魚販売は行っていません。マダイの取り扱いはありません。</p> <p>両社は、同じシステムにて管理、運用を行っています。種苗生産、養殖とも、先述のように魚種、水槽、漁場、生簀ごとに管理がなされ、飼育記録が入力管理されています。</p> <p>水槽、生簀の分割、統合も明確に管理され、最新の情報が常に確認できます。死亡魚数を含め、尾数情報も記録されています。</p> <p>水産用医薬品は、適切に管理された上で使用しています。水産用医薬品の購入、投薬記録も、飼育記録に全て情報が入力されています。※ワクチンの使用は、ここ1年ありませんでした。</p> <p>逃亡管理として、ジャンプネットや天井網の設置、潜水士による網破れの確認がされています。</p> <p>種苗育成から養殖、出荷に至るまで、ストレスや損傷を極力抑え、魚類福祉の考え方を持ち適切な環境での飼育実施が継続されています。</p> <p>種苗生産・養殖を行う海上施設は、飼育状況をよく観察できるしくみが施され、毎日、魚の泳ぎかたを観察し状況を把握し、対応しています。</p> <p>不明魚率はマダイ、クロマグロとも要求事項を下回り、規格に適合した管理状況を維持していました。残存尾数のカウントを行うタイミングで、管理簿との数値の差異がある場合、記録をしています。適切に管理されていました。</p>

3. 環境配慮

- ・TDG
 種苗生産施設、養殖施設は、漁業権行使契約書を取得しています。周辺の環境：近隣に工場、焼却場、ホテルはなく、良好な漁場環境が保たれる地域です。水温、DOなどを測定、記録し変化を確認できる状況が維持されています。現地にて養殖場を確認しました。余分な給餌もなく海の状態も適切に管理されていました。陸上生産施設がありますが、浄化槽点検は実施されており、適切な管理がされていました。海上における水質調査は、県や他事業者と連携し定期的の実施されています。必要な水質情報を入手し、適切な養殖管理がされていると判断できます。死亡魚の取り扱いは、冷凍保存の上、定期的に五島漁業協同組合に回収依頼しています。
- ・TDO
 養殖施設は、「くろまぐろ養殖場及びびくろまぐろ養殖業者一覧（公表用）」にて法的に認められた場所で行われています。陸上生産施設は、ありません。周辺の環境：近隣に工場、焼却場、ホテルはなく、良好な漁場環境が保たれる地域です。水温、DOなどを測定、記録し変化を確認できる状況が維持されています。死亡魚の取り扱いは、冷凍保存の上、定期的に専門委託業者に回収依頼しています。

4. 飼料

- ・生物飼料、配合飼料、生餌を使用しています。信頼がおける飼料供給先から購入しています。魚種や成長段階により判断し、状況にあった飼料を使用しています。生物飼料の取扱いは、TDGの陸上施設のみです。配合飼料は、品質証明書に、“食料安全法”に適合している内容が記載されていました。給餌、栄養剤等の使用記録は、各データ内に記録されています。適切に管理されていました。現在、PCソフトを使用した“魚体の増肉係数の活用”に取り組んでいます。

5. 食品安全

①TDGでは、種苗施設、養殖施設の汚染源をなくす為に、下記を実施していました。

- ・陸上施設では、海水をくみ上げてろ過し、使用。海上では、漁場ごとに水温、DO、透明度、プランクトンを確認。適切な水環境であることを確認。
- ・発電機、コンプレッサーを使用する際には、汚染オイル流出のないように配慮している。ブルーシートを引き、板を引き、ウエスにてふき取るようにしている。
- ・台風接近時は、陸上事務所に引き上げる。

②TDOでは、養殖施設には、生餌以外の備品、設備はありませんでした。

- ・養殖施設は、陸地より約4km沖に設置し、生活排水の影響がないようにしています。

海上施設の水質管理は、日々の計測で変化を確認し記録しています。底質管理は、定期的に行っていました。出荷時の取扱いは、短時間で処理や劣化させないための方法を取り入れ、衛生面を意識した運用が継続されていました。

6. 安全衛生・労務管理

- ・労働安全については、安全第一を掲げています。豊田通商の管理基準をTDG、TDOともに導入しており、安全活動計画に基づき実施、管理がされています。豊田通商の監査も受けており、安全面において適切に実践できています。TDOで1件、労災が発生していました。対策は、適切に取られていました。労働環境も適切に管理がなされています。児童労働、強制労働、拘束、差別などもなく、ハラスメントに対するしくみも構築されています。毎日従業員全員で朝礼を実施しており、詳細事項を含む管理全体について情報共有が徹底してなされており、よいコミュニケーションがとられています。

7. 社会経済的側面

- ・昨年度の不合格事項も是正され、問題ありませんでした。

変更事項							
窓口担当者連絡先変更	無		新担当者名	-			
認証事項変更	申請者名称	<input checked="" type="checkbox"/>	申請者住所	<input type="checkbox"/>	施設一覧	<input type="checkbox"/>	その他
-							
変更前				変更後			
施設コード	施設名称	住所		施設コード	施設名称	住所	
-	-	-		-	-	-	
最終報告日	2023/6/26	クライアントレビュー	2023/6/19	ピアレビュー	国立大学法人東京海洋大学 原田 幸子氏 2023/7/7	パブリックコメント	